

地球学の可能性

地球学の可能性

中学部 竹村 慎吾

Society 5.0

求められる力

- ① 文章や情報を正確に読み解き、対話する力
- ② 科学的に思考・吟味し活用する力
- ③ 価値を見つけ生み出す感性と力、好奇心・探究力

取り組むべき政策の方向性として

- ① 『公正に個別最適化された学び』を実現する多様な学習機会と場の提供
- ② 基礎的読解力、数学的思考力などの基盤的な学力や情報活用能力をすべての児童生徒が習得
- ③ 文理分断からの脱却

好奇心・探究力

ワクワク

ワクワク



学びの自立化

多くのワクワク

- 学内でのワクワク
 - 通常授業でのワクワク
 - 部活動でのワクワク
 - 学校行事でのワクワク
 - 地球学でのワクワク
- 学外でのワクワク

子どもたちにはそれぞれ異なるワクワクが

地球学

地球学の可能性

地球学とは

地球学とは、知的好奇心と国際理解の精神を伸ばし育てることを目的として、平成22年度より**教科の枠を越えて体験的な学習を取り入れ**、本校独自に展開している総合学習。

その目的は大きく5つを掲げ、

- ①環境を守り育てる
- ②多文化理解を深める
- ③平和を目指す
- ④資料収集力を養う
- ⑤表現力を養う

7

地球学とは

年度末には地球学で学んだことを発表する**プレゼンテーション大会**を実施。

特に3年生は自由テーマのもと、**卒業論文作成**にとりかかり、その成果をプレゼンテーション大会で発表している。

8

地球学とは

= 「自分は何者なのか」を考えるプログラム

広い視野
深い洞察力



地元→日本→世界と段階的に視野を広げ、体験的に学んでいく。

9

地元



深泥池観測

地元



芹生～京都は昔、海だった！？

地元

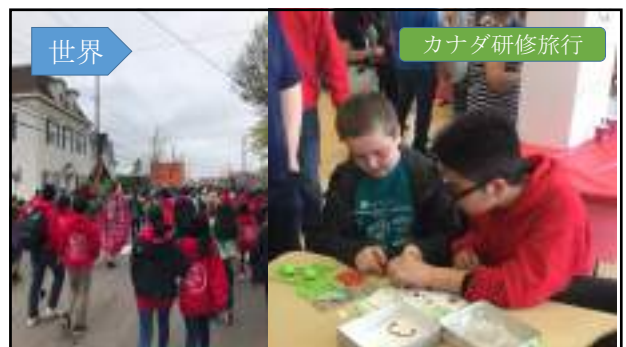


京野菜

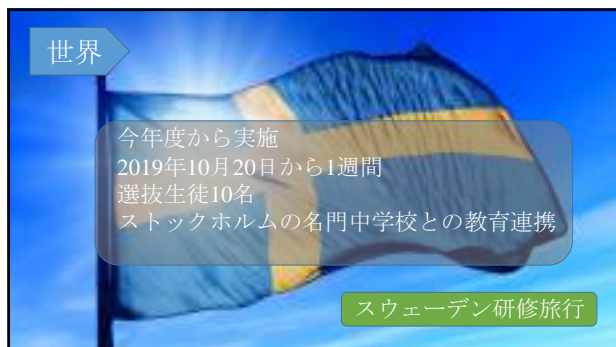
地球学の可能性



地球学の可能性



地球学の可能性



3年間の地球学の学びを通して

ワクワク

課題と必要なアクション I

- ① 物事を分析することが苦手
⇒「考える手法」そのものの授業
- ② 事後指導の徹底が不足
⇒カリキュラムの再構築
PBLの要素を更に意識するための時間確保
- ③ 地球学と5教科の関連性をもっと密接なものにしたい
⇒文理融合の意識を持つ・デジタル教材を積極的に活用する

課題と必要なアクション II

- ④ 学校、家庭、地域との協働が不足
⇒地域社会と連携した体験的活動やボランティア活動、または探究的な学習を通じて、地域との結びつきを強固なものにする
- ⑤ ICTを活用しきれていない
⇒快適にPCを使用できる環境整備とハード面の充実。校内でのPC使用に関するルールの整備
- ⑥ 「地球学」を通して、実際に身に付ける力とは？
⇒何を学んだかというより、むしろ学びの中のプロセスに意識を持つべきなのかも。何らかの方法で特定・計測できないものか。

さいごに

予測不可能な時代を生き抜くために、「解のない問い」に対して取り組む力が問われています。「地球学」では、様々な経験・体験を学校内、学外、宿泊を伴うフィールドワークで行っています。こうした活動が「私はこの分野が好き」「これは面白い」など、自分は何に興味があり、何を好きなのかを探すきっかけになればと思います。

「地球学」を通して、**失敗を恐れず行動し続ける**ことの大切さを学んでほしいと思っています。

ご清聴、ありがとうございました

31

参考文献

“学校教育の重点2019” 京都教育委員会、
<https://www.city.kyoto.lg.jp/kwoiku/cmsfiles/contents/0000221/221834/jyuten2019.pdf>
(2019年8月16日)

Society 5.0に向けた人材育成～社会が変わる、学びが変わる～ 文部科学省
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/other/detail/_icsFiles/afieldfile/2018/06/06/1405844_002.pdf (2019年8月1日)

“未来の教室ビジョン” 経済産業省
https://www.meti.go.jp/press/2019/06/20190625002/20190625002_01.pdf
(2019年8月1日)

32